

陸軍兵長 所 久雄

昭和十八年七月二十七日 ソロモン諸島ニュージョージア島にて戦死

揖斐郡揖斐川町出身 三十歳

(前略)

夜になると、戦友と色々家の話をして、笑ったり泣いたり致し居る。時々お前や功の写真を取り出し、感慨無量にて眺め居る。出発の前にくれた手紙も、日記に挟み込み、時々読み返す。可愛いかなをや功の事は忘れる暇がない。男子一度出征して、こんな事を云ふは誠にみつともないが、人間としては之が本当の心であると小生は思ふ。

乗船の日は十五日らしい。小生も健康に充分注意して、一意専心、軍務に御奉公致す覚悟である。お前も体を大切にして功を立派に育て、小生無事帰還の日を待つて居てくれ。

出航してから目的地に到着するまで、一月半位はかかるやうであるから、相当長い間、お前の方へ便りは出来ぬが、何も心配する事はない。小生、死ぬも生きるも皆運命と思ひ居り、日夜何時もかも、神仏の御加護あるを喜び喜び、軍務に精励して居る。くれぐれも云ふが、体を大切にせよ。(後略)

久雄より

